

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第17号

ななえ古写真物語

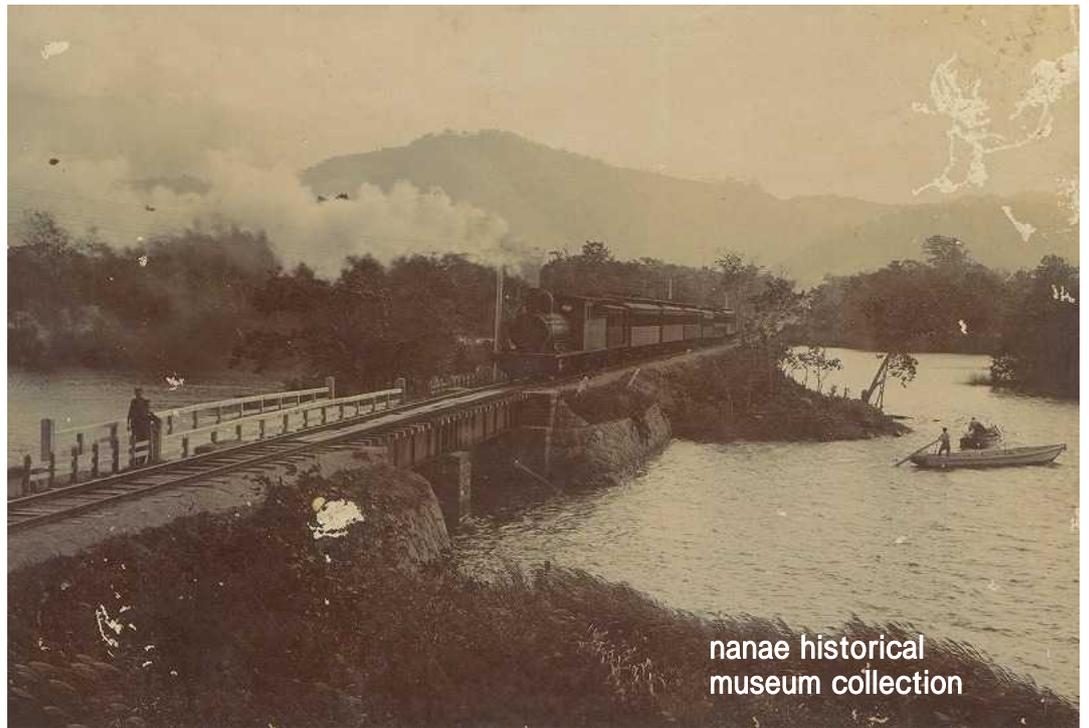
VOL. 17

鉄路のある風景

～月見橋と蒸気機関車～

明治40年代～昭和初期

白鳥台セバット周辺



少し前のこと、どのような流れでこんな会話になったかは覚えていないが、「七飯町でも蒸気機関車が走っていたんだよ」と来館した子どもに話したことがあった。その子どもの返答は意外にも「知ってる！知ってる！！この間も走ってたから！」というもの……。その時は、勉強不足で「何をいっているんだか……。私でも見たことないのに、ましてや君が見ているはずがない！」と思いつつも、ほほえましい笑顔を返したのだが、後に、ゴールデン・ウィークや夏休みなどの期間限定で、蒸気機関車が函館～森間を走っていることを知り、「しまった！そういうことだったのか！」と赤面してしまったことを記憶している。以来、ゴールデン・ウィークが過ぎると、苦い思い出として、その時のことが脳裏に蘇る……。

今でも野鳥や昆虫の観察を兼ねて、大沼周辺を車で走っていると、鉄道好きの方が立派なカメラを構えて写真を撮っているのをよく見かける。その熱心さを見習わなくてはならないなと思いつつも、いまいちその良さを理解出来かねていたのだが、上の古写真に出会った時、なるほどな……と思った。

この写真は、恐らく明治40年代から昭和初期頃の様子と考えられ、冬に白鳥が飛来する場所として有名なセバット付近から、蒸気機関車が悠然と走っている風景を写したものです。左に写っている橋は「月見橋」で、今のように車が通るほどの大きさではありません。そして、背景に聳える山はピチャリ12号でも紹介した「吉野山」でしょう。

このような写真を眺めていると、蒸気機関車という人工物「機械」が相反する存在といえる自然の中に違和感無く溶け込み、風景の一部であるように感じ、これまで理解しかねていた魅力に触れた気がした。

ところで、大沼を鉄道が走るようになったのは、明治36年からである。予定では大沼公園周りのルートではなかったが、宇喜多秀夫ら大沼在住の有志の尽力によって現在のルートに変更され、大沼公園周辺が観光地として賑わい、全国的に知られるようになった。そのことを思うと、この写真は、大沼における近代化の象徴のようにも見える。

さて、もう青年になってしまったらどう例の少年に一言「すまない。君は正しい」とこの場を借りて謝りたい……。

25日 平成21年度のジュニア探検クラブが開講しました。第1回目のこの日は、歴史館館長より会員証が渡され、その後、ひとりずつ自己紹介をしました。午後からは、りんごの植樹(たむら・祝・紅玉・スターキングデリシャスの4種類)を行いました。肥料を混ぜ、土をかぶせ、最後に自分達の名前を描いた木札を立てました。風が強く、ちょっと寒かったですが、皆とても頑張りました。



26日 親子体験教室<ふぁみりーでいみゅーじあむ>第1回目は、こどもの日にちなんで小さなビニール袋でこいのぼり作りに挑戦!目やうろこを描き、個性あふれるこいのぼりが完成しました。次は長いビニール袋をふくらませ、<飛ぶ>こいのぼりを作り、子ども達はとっても喜んで遊んでいました。最後にかわいらしいこいのぼりの箸おきも作り、色々なこいのぼりが完成した1日でした。

装いに見るくらしと道具展開催中!

5月16日より、<装いに見るくらしと道具展>を開催しています。主に昔の着物・帽子・下駄・頭巾や衣服に関する小物などを展示しています。また最近、環境に優しいと再び注目を集めている<ふるしき>を使った簡単・便利な包み方も紹介しています。6月24日まで開催しておりますので、ぜひ、ご観覧ください。



6月の予定

1	月
2	火
3	水 夜の博物館
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木 史跡見学会募集締切
12	金
13	土 ななえの史跡をあるこう
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水 収蔵展CLOSE
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日 ふぁみりーでいみゅーじあむ
29	月
30	火

募集:20名
募集締切:6月11日まで
対象:一般

6月の休館日はありません。

野草園の整備をしました。

午前中から始め、終了したのは午後...と大変な作業でしたが友の会の皆様のご協力により無事終了することができました。ありがとうございました。(A)



編集後記 ~tawagoto~
先日、七飯町果樹組合さんにお誘いを受け、西洋果樹140年に関係する集まりに参加させていただきました。私としては、初めて生産者さんの前で、話をさせていただきとても緊張しましたが、その後開かれた座談会では、年配の生産者さんのお話を聞くことができました。やはり、経験者本人から聞く、果樹栽培史は貴重な話ばかり...。七飯町について、まだまだ、知らないことだらけだなあと少し反省の1日でした。(やまだひさし)

Picharr ~ピチャリ~
第17号
平成21年5月20日 発行
七飯町歴史館
〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp